

リーダーシップを スポーツ心理学の 観点から研究

専門分野 スポーツ心理学

担当科目 スポーツリーダーシップ論特論など

小菅 萌 准教授

略歴

ミシガン州立大学にて博士号取得。大阪体育大学助手、順天堂大学助教を経て現職。プロスポーツチームへのスポーツ心理学を用いたコンサルティングも行っている。

近年の研究論文

Machida, M., Schaubroeck, J., & Feltz, D. (2016). Leader self-efficacy of women intercollegiate athletic administrators: A look at barriers and developmental antecedents. *Journal of Intercollegiate Sport* 9, 157-178

良いリーダーとは何か？良いリーダーになるためのプロセスとは？日本では、リーダーとは1人であり、すべての統括者であるということが常識ではないでしょうか。しかし、海外の研究ではリーダーシップは分散させたほうが良いとされています。たとえば、スポーツチームリーダーには主に4つの役割があると言われています。競技における目標達成に影響を与える「課題的」役割、競技外でチーム内の関係づくりを促す「社会的」役割、メディアやチーム外の関係者と関わりを持つ「外的」役割、そしてチームのモチベーションの維持・向上を助ける「動機づけ」の役割。それぞれを得意とするリーダーがチーム内に存在し、役割を分担したほうがチームのパフォーマンスが高まるのではないかと考えられています。こうしたリーダーシップの理論や研究を実践・検証し、“良いリーダーになるプロセス”を明らかにすることが私の研究テーマです。

「スポーツリーダーシップ論特論」では、リーダーシップの様々な理論や研究を取り上げるだけでなく、それをいかに実践し、学んだことを現場に還元していくかを重視しています。そのためにアイデアを人の記憶に残るように伝達する方法についても考察しています。どのようにリーダーシップを育むのかに興味を持ち、ぜひ現場に生きる研究を行ってほしいです。

キーワード

■リーダーシップ

スポーツチームにおけるリーダーシップ(監督、キャプテン、コーチなど)について研究。

■チーム

リーダーシップの理論や研究を応用し、良いチームづくりのプロセスを研究。

■自信

スポーツ心理学の観点から自信を考察し、パフォーマンスの向上を目指す。

■コーチング

効果的なコーチング、選手の育成についてのプロセスを研究。